



2017. 12. 21

## 年末年始は何をする？

多くの子どもたちが年末年始の休みを楽しみにしているようで、期待感が高まっていると思います。しかし、多くの子がダラダラした生活になりやすいと聞きます。では、どんなことに気がつけたらいいのでしょうか。

### 1 年末年始の行事を楽しもう

年末は、大そうじ、正月飾りの準備などいろいろ行うことがあります。できるだけ、子どもたちにかかわってほしいと思います。無関心なままで過ごすのではなく、子どもたちなりに準備の大切さを理解してほしいのです。

また、正月になると初詣、おせち料理、年賀状、昔からの遊び(かるた、コマ、凧など)も体験してほしいことです。かるた取りは、集中力を培います。ゲーム性も高いので、その子の性格も観察できるでしょう。また、コマ回しは難しく、できる子は少ない感じです。ヒモを巻き、投げてタイミングよく引くことはとても難しいようです。親子でコマ回しに取り組んでみてはどうでしょう。

### 2 お手伝いができるといいね

冬休みの間、子どもたちができる範囲でお手伝いに取り組んでほしいと思います。失敗もありで、意欲的に取り組む姿を褒めてあげましょう。確実にできるようになると、親としても頼りになるでしょう。年長さんくらいになると、びっくりするくらいやってくれることもあります。

お手伝いをしたがる時期は、3歳から6歳までのようです。自分でやることに対して達成感が持てるようになりますし、「できた」という自信が次への好奇心も高めることができます。この時期を大切にすべきです。子どもへの相手は面倒ですが、家事への関心を高める第一歩にもつながります。ここをスムーズに乗り切れば、その後、大きな効果をもたらしてくれるでしょう。「ありがとう、助かるわ」という言葉に、素直に喜んでくれる子どもたちになってくれると思います。



### 3 運動は気持ちいいよ

寒い毎日ですが、元気よく体を動かすことを意識しましょう。高カロリーの食事と温かい室内だけの生活は、新学期が始まると不安な要素が増加します。体調不良などで、欠席が続くことも考えられます。インフルエンザだけでなく、いろいろな感染症が流行る可能性があると思います。抵抗力のある元気のよい体づくりを意識しましょう。

例えば、犬の散歩、家のお掃除、なわとびなど、積極的に体を動かしましょう。外で元気よく体を動かすと、すっきりして気持ちがいいですよ。

# オレンジグループの生活発表会



12/12(火)インフルエンザで延期になったオレンジグループの生活発表会がありました。

この日は朝から雪が降り、寒い一日でしたが、子どもたちはよく頑張りました。振り返ってみると、物語の展開はなかなか興味を引くものになっていました。

タイトルは「やまぐちむらのももたろう」といいます。ももたろうの物語が進行していくと、定番の内容とは少し違っていました。鬼が本当は友だちになりたかったのに、気を引くためにいじわるをしてしまったと言っていました。なかよくするためには、素直に「ごめんなさい」と謝ったり、一緒に遊んだりしていくことが大切なんだと教えてくれました。ももたろうと鬼の戦いではなく、ホンワリ

と心が温まるストーリーになっていました。

一人ひとりが楽しんで取り組み、しっかりと演技ができました。最後に歌った「ぼくらのたいよう」は難しい曲でしたが、子どもたちは心を込めて歌ってくれました。

「ぼくらのたいよう」は、こんな歌詞です。一部を紹介します。

手のひらと手のひらをしっかりつないだら 心と心もつながっていくんだね  
歌声と歌声をしっかり合わせたら 心と心も合わさっていくんだね  
一人でなんでもできるのはいいことさ だけど一人じゃできないこともあるだろう  
みんなで手と手をつないでさ 大きなわっかをつくってさ  
たいように見せてやれ ぼくらのたいようを見せてやれ



最後に先生が「クラスを越えて子どもたちの交流が広がっている」と話してくれました。発表会で演じた内容(悪いと思ったらごめんねを言おう。一緒に仲よくしていこうなど)と、自分たちが歌った内容(歌声をしっかり合わせよう。心をつなげようなど)が全部つながっているのだと思いました。オレンジグループのみなさん、これからも仲のよい友だちをたくさん増やしてくださいね。

## 生活発表会のその後

年中長組の生活発表会は、オレンジグループの発表で全てが終わりました。子どもたちは、生活発表会だけでなく、その後も子どもたちで見せ合ったりと広がりを見せました。ピンクグループは、役を入れ替えて演じてみることを2回ほどやったそうです。また、年少のたんぽぽ組のリクエストに応じて、12/7に本番と同じように見せてあげたそうです。このときは、子どもたちが道具の準備や幕の操作なども頑張りました。

12/13には青グループが、子どもたちで進行しながら見せてくれました。しかし子どもたちがやったので、太鼓のバチが足りなかったり、跳び箱の踏み切り板が行方不明だったり、若干の混乱がありました。しかし、少し緊張気味の本番より、実ののびのびと演じていました。

まわりのみんなへの感謝の気持ちを、いろいろな形で表してくれました。胸が熱くなるほど、うれしかったです。

## ホテルのクリスマスツリー

「大殿ホテルを守る会」からクリスマスツリーをお借りしました。このツリーはいろいろな飾りはなく、黄色い光が点滅するだけです。やはり見た目は地味な感じです。ホテルを守る会が、持ってきてくれたことに意味があるのです。一の坂川のホテルは、天然記念物として昭和10年12月24日に指定を受けました。つまりクリスマスイブに決定したことになります。そこで、このツリーは黄色いホテルに見立てた光が、ちょうどゲンジボタルが明滅するタイミングと同じようについたり消えたりするのです。よく見ると「なるほどそうか」と思うのです。華々しいツリーではないのですが、しっとりと落ち着いた感じを見せています。12/25まで幼稚園玄関に飾っていますので、ご覧ください。

クリスマスについて思い出すお話がもう一つあります。もう、6年くらい前のことです。大殿小学校へ勤めていたとき、1年生の子どもたちをつれて、山口市民館へ行きました。本物のサンタさんがやって来るというクリスマスのイベントがあったからです。大ホールは、幼稚園や保育園くらいの親子づれでいっぱいでした。フィンランドのサンタさんが登場したときは、子どもたちは大興奮でした。「質問はありますか」と進行役が声を掛けました。どうだろう？と思っていると、たくさん子どもたちが勢いよく手を挙げました。いちばん印象に残ってい



る質問がこんな感じでした。「サンタさんは、プレゼントを煙突から入って持ってくると思います。ぼくの家には、煙突がありません。プレゼントは届きますか？」サンタさんは慌てて「ええー」と言いました。でも、少し間をおいて答えてくれました。「大丈夫です。私はどこでもドアを持っているので、プレゼントはちゃんと届けられるよ」子どもたち全員が「あーあ」と大きな声を出して、納得したのです。

子どもたちの心が温まる素敵なクリスマスになることを祈っています。

## もちつき

12/19(火)野田学園幼稚園のもちつきがありました。年末恒例の行事ですが、にぎやかな雰囲気は年の瀬のあわただしさを感じさせます。

パパ会のお父さん、ボランティア部のお母さん、シルバー人材センターの皆さんなど、たくさんの方がかかわってくれました。

今回は、年長組の子どもたちが仁保の田んぼで作ったもち米でお餅をつきました。しかも赤米も餅の中に入り、少し赤くなったお餅もあったのではないのでしょうか。自分たちが関わったもち米で餅を作ったという体験は、とても誇らしかったのではないかと思います。ぬかるんだ田んぼと格闘し田植えをしたあのアンパンマンの田んぼで出来たもち米です。あの悪戦苦闘から収穫したもち米というだけでも私は感動しました。

子どもたちは、杵を持ち数回餅をつかせてもらいました。また、ボランティア部の皆さんやシルバーさんが、小さく切ってくれた餅を一生懸命に丸めることができました。また、2歳乳児部の皆さんは、来年のもちつきはきっと喜んでくれるだろうと思います。そのときが待ち遠しいですね。

もちつきは、最近大人も子どもも、杵と臼を使ったことのない人が多くなっています。だから、うまくもちを杵でついたり、こねたりできる人のほうがめずらしくなっています。それも仕方ないと思います。また、つき上がった餅を小さく切ることをやっていない人も多いのです。それぞれの家庭は、もちつきは機械だったり、お店で買ったりして、杵と臼でもちつきをする光景はもうなくなりました。

米を餅にして食べる方法は、日本人の知恵と言ってもいいでしょう。餅にすれば、保存が簡単にできるのも利点です。出来上がる過程を自分も体験することで、きっと餅が好きになったでしょう。だからこそ、このようなもちつきが大切なのだと思うのです。

もちつきは、多くの皆さんのご協力が無事終わりました。ご協力有り難うございました。



年長組のもち米づくり活動を、わかりやすくパネルで紹介してくれました。